

成形圖說 農事 十

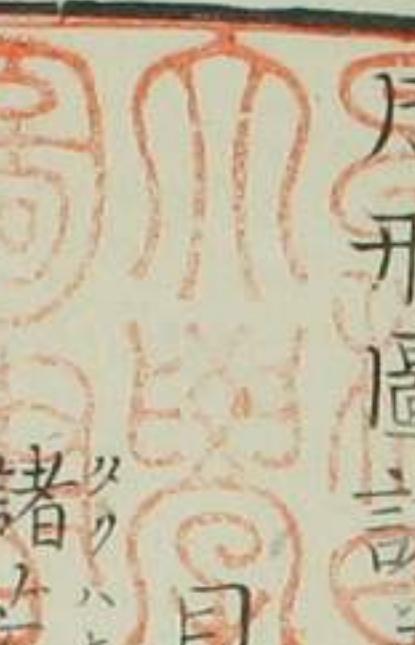
特別
二一
2442
10

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 JAPAN TAIGA

二一
2442
10

小野
藏書

成形圖說卷之十



假貸
イフシノイチ

御廩
ヨウリ

儲蓄
ツクハヒ

目
錄

昭和十八年
一月二十七日
購入

成形圖說卷之十

成形圖說卷之十

農事部

類儲蓄

多久波比

書紀○神功卷聚斂土物とも仁德紀

曾奈返

天武紀諸王及百寮預兵及馬又曰降大恩恤貧乏給飢寒

めり今言加

古比とくよてておのうよ時乃洞よて乃は待然并云より多めると

多米留

和訓聚云蓄積ヒ云もも後擇集

諸蓄

周禮○管子國有十年之蓄而不

儲蓄

足于食皆以技能望君之祿也

之大命也

苟粟多而

財有餘

何為而不成

食貨志

堯有九年之水湯有七年之旱而國亡損瘠者以畜

災害

而備先具也又前漢景帝詔欲天下務農蠶素有畜積

積儲

惟南子十八年而有六年之委積注少曰委

積二十七年而有九年之儲

多 積 蓄 史 蔡澤 傳

廩 蓄 唐 劉蕡 傳

儲 胪 前漢 楊雄

蓄以待所須也○字
典諸胥猶言御苑

蕃名ホールラアドコールン

宣化天皇詔曰海表之國候潮水以來賓望天雲而奉貢自胎中之帝洎于朕身収藏穀稼蓄積儲糧遙設凶年厚饗良賢安國之方更無過此今あくしハ賜の陞よりまで嘗なれかやくとよこをあく四つ海の外におよび狹境ふと國もととまうて牛と駒馬と鳥とをはかく坐る魚とあし等がおとておゆしかくといやまへ煙城壁ておゆんきくとおもひの脚ちゆと遇るあい

めうもと語りハモカニシアミ思ひあくまくややは夫
渾と開き流と通じるハ財と生の大通みて用と蔽小
し畜と拂らるハ帝王ノ義漁トクヤ年極大晦ハ酉月元
日より計りて年をもえ算すハ大つあくセモ小
もくもくハやうゆけて一年の計ハ春よりさうは一
年の計ハ即今より計りて年をもえ算すハ
きまに仰ぐれともあくセモ儲蓄乃本ハ凶歳乃備と豐年
乃時より計りて年をもえ算すハ自乃よよそ在
どあう古語ニ富足生於儉約貧困起於奢侈ともアリ干
里の遠みあるハ一步より進ミ江浦ハ小き渦の積まる



よりそゆきよしの僕約ハシメ志次人ハシメおとこりと
あつしまで古ハシメ泰タケシをりをく陽ハシメ伸タケシは陰ハシメは原ハシメ
ひりりんとさくの屯難タニジクと經事苦ホリタシナミと寄タマざれハ一生
と遂タマ済タマあはゆきのやせすつゝりよ精タマき者
はよく順タマ候タマへぬいあはすよやまと意タマのまくすう付タマハ
いきくわくらむて善タマの病めども一タマび逆境タマへ遇タマてちゆ
わき身タマゆき利タマとタマあひ意タマはせされも忽タマよ志
屋タマ一氣レキ凋タマていやく此タマとタマしきかタマど我タマハくまくタマ時
運タマつタマしきタマあづりせとタマみて濟タマとタマまちう
く多く是天タマの道タマと畏タマもり生タマすタマほしと省タマざるよ

まかはまくらやくせくふを危タマ歎タマ情タマ變タマあくと怪タマ好
もくとくよ風タマアツとて寒タマとやしよまうタマ文返タマされ
一タマとて身タマひるよ河タマは是タマ志タマの能タマへと御タマしてやま
れざタマのやうそタマあくやまれざタマの黒念タマと滅タマの道タマへ投タマ
四タマし身タマとたタマあく命タマと体タマもん付タマハ奴タマ馬タマを十タマ駕タマもほ
功ルガ在ス不舍タマの成就タマと遂タマる爲タマして一タマ進タマ一タマ退タマ
たタマ一タマ音タマまがつきあタマハ六タマの良馬タマとくらう車タマり
とタマゆりとタマへハ浮タマ行タマましとタマと戒タマめおけと夫タマ脩
畜タマ節タマ儉タマの通タマハ忠タマもろ人の不如意タマと堪タマれて國タマを
し民タマと嘗タマまつもとく故タマニ王タマ侯タマハ下タマ民タマの為タマよけの臣庶

ハ主恩と説ん爲よりい農工商ハ又ゆりゑ一登陸シンドウ
墮し破られ一とくをよきあくまされ士君子の道を学ぶ
也この道理とゆふせんう焉ありき也はよ各鬻鄙井
へ歸るもハ金銀と以計のみへ巨萬と要領てと贋ふ
もひもくばあひはまか不猶めハあづこつて義理の
蟹カドイとあ免テユルよ滅ツヅルじわくに沒ハ不義とも云義とへんつ
クと終身金浪利歎の為ヨシよひと嘆し人生百年と期クダラ
よ空く千歳の夢と抱き夕ハ徒タタラよ草木と同く枯落し
て後已タマえの多タマ小人めもこの者畜スミと僕縄ハシメとの焼ヤクと禮

ちうくて炭と秤ハナと取ハサウて積栗カタハセ貰リツふらとあれども
人の急難と卸ハシムと私の安逸のハシム實サホるやうに都良香ヨシカ
記ヨシカ凡情の愚カタハの如カタハ踏ハシムつあづれて惑の上カタハハ醉
とあし醉ウキの裏カタハに至カタハとすし夢カタハすとぞとカタハとカタハと
りむカタハお水深カタハう手カタハ用金カタハと金門カタハ城カタハの守カタハ
て何時カタハいろなる安樂カタハてと氣カタハもひきとカタハりひき
と鶴氏カタハさようとカタハてつ時カタハよ滅ツヅルと招カタハうごとく
鹿臺カタハの財鉅カタハ橋カタハの棗カタハを鑿カタハ時の小ぬまカタハは集カタハの炭薪カタハとな
しゆうよはらカタハよや齊明紀カタハよ大起カタハ倉庫カタハ積聚カタハ民財カタハ長穿カタハ
渠水損費カタハ公糧カタハハ政の失カタハあり史記カタハよ孫弘常カタハ称カタハ以カタハ爲人主カタハ

病不廣大人臣病不儉節と々えし嘗豐大閭の時金銀と
大分耗よ納多は社士と牢よ押込主よひくまとてぬ
度まで施拂せられ金銀残ふと曰民へ配があり天下ハ
天下代天トあり一人の天下よ非ざるものあらずよ
うやもつよ猪母の仁とづハ一もと抜てと上よ
收てててよその遠想ヒ被ふよと仰り金銀珠玉を
下する限あるものあうと何むどの算劫を謀みくと水
汲わくはやくみと輸イタレきおもと國の量とおもく
毛ううすう立穀ヒ始としてあくやう法拘ヒ油斷な
く耕種し立役ヒ居し仕付並見めわけ政治の財筋ヒ遠

つざるやうの體の體がばわせて下給はれなくわ
ふ爲まくまくまくむじう伊達家の有司領主の家がど
かへ用金と課やうは中將吉村朝をよみてよよりそ
トヒキヒをよとより上ヒウキシヒヒヒヒヒヒヒ
とと一員の形ヒよと示されうとと隠し國のやま
甲斐やうくめくまくめ民よめくはくくはくくよ
めくはくくあくあくやうれ子内シナヒテ取ヒ攻め御氏
を直ヒうてうあくめくめくとあくとあくハア石の
主されハア石らよの傳ヒテ城外の奉持ヒ千鍾の
様にハ千鍾の能ヒテあく乃備ヒ門を各景

其奉養は顧ても職分よりはるゝ天下の人の爲
所と爲ざる者あらんやといへり。宋范希文嘗て自言。吾每
夜就寢爲計。一日飲食奉養之費及晝所爲之事。若相稱テニシヤヒカタ之
則鼾睡熟寐無復愧耻。苟或不然。終夜不能安枕。とくも
主所負しけむ。すばりまじめに人車ば窮まし。人よと
石室かくましく免ひ。ざるをひとのをや。ぬ。胡魚
タ菜の營は。烟。ちぢ。しのの少も。よのこ。が
れつ。紳子弟妻と。の日。ハ難。乃財。もて。よ是。暖。あ
き夏の夜ハ蚊。まゆのいづ。に。の。く。の。者。ハ。い
う。わ。と。條約せ。あく。お。く。お。く。も。有。ま。る。と。條約。ど。と。り

金。四十。僅。五。十。う。せ。の。え。は。う。ま。せ。と。只。衣。の。食。の。
み。傳。ぐ。と。く。穿。と。き。の。慣。と。會。て。所。爲。し。の。命。と。う。あ。ぎ
あ。ら。か。か。ほ。と。の。ふ。ハ。何。の。然。蓄。と。う。盡。け。ら。也。古。語。よ
禮。義。生。於。富。足。盜。竊。起。於。貧。困。と。も。又。衣。食。足。而。知。榮。辱。倉
稟。實。而。知。禮。節。と。管。夷。吾。う。つ。い。し。さ。る。あ。と。や。い。ふ。と
毛。田。義。倉。乃。儲。は。か。く。あ。窮。き。と。の。う。め。負。ば。賙。し。急。扶
救。ふ。の。用。意。ふ。て。式。又。賙。急。田。と。と。ゆ。め。り。と。の。小。女
の。中。も。あ。く。困。窮。と。れ。ハ。千。萬。人。の。口。ば。編。く。賤。い。給。ハ
ト。よ。う。活。獄。の。禁。と。あり。又。ハ。あ。る。ま。き。ふ。く。て。せ。と

希^チの苟^カと合^ハて第^{シテ}第^{シテ}はしめう紙貫才甲科ノ人^{アヒ}シ
ふもや是^{シテ}士大^{シテ}もあら^{シテ}縁^{シテ}有^リバ事^ニ通^ス
とく君^ニ事^ニあ^リハあ^リゾ^シシマ^ハ又^{シテ}通^ス取順守^{ミシテ}
シテ^{シテ}言^ハ 皇國^ニの教^ニ通^スシテ^{シテ}は^シシテ^{シテ}通^スシテ^{シテ}後^{アヒ}セ
ハ^{シテ}か^{シテ}あ^リゾ^シシテ^{シテ}君^ニの通^スシテ^{シテ}後^{アヒ}セ
ぬ^{シテ}地^ニ歌^カシ^シま^ハは^シシテ^{シテ}君^ニの^{シテ}人^{アヒ}胡^ハ付^マ
つ^{シテ}シテ^{シテ}み^{シテ}通^スシテ^{シテ}退^スシ^{シテ}付^マ立^タめ^{シテ}ば^{シテ}付^マ立^タめ^{シテ}
か^{シテ}シテ^{シテ}出^ス通^スシテ^{シテ}き^{シテ}ま^ハな^ハ得^ス就^スて^{シテ}後^{アヒ}ま^ハめ^{シテ}や^シ小
身^{シテ}付^マ立^タめ^{シテ}事^ニ執^スシ^シあ^リ付^マせ^{シテ}あ^リひ^{シテ}ゆ^{シテ}ひ^{シテ}て
窮^{シテ}シテ^{シテ}あ^リあ^リシテ^{シテ}一^{シテ}セ^{シテ}の事^ニハ^シシテ^{シテ}通^スシテ^{シテ}止^ム

も順^{シテ}事^ニの事^ニあ^リあ^リシテ^{シテ}何^{シテ}され^シ咽^{アヒ}門^ノ
の御^{シテ}法^ニ常^シト^シあ^リあ^リシテ^{シテ}あ^リや^シは^シ年^{アヒ}月^{アヒ}が^{シテ}通^スシテ^{シテ}あ^リ
く^{シテ}よ^{シテ}と^{シテ}通^スシテ^{シテ}下^{シテ}より^{シテ}と^{シテ}通^スシテ^{シテ}風俗^ノの^{シテ}む^{シテ}小^{シテ}及^スだ^{シテ}
シ^{シテ}は^{シテ}豊^{シテ}の^{シテ}あ^リの^{シテ}つ^{シテ}と^{シテ}通^スシテ^{シテ}之^{シテ}聲^ノ鴻^ハ夜^{アヒ}食^ス
う^{シテ}あ^リあ^リと^{シテ}起^スシテ^{シテ}それ^{シテ}ど^{シテ}通^スシテ^{シテ}之^{シテ}聲^ノ鴻^ハ夜^{アヒ}食^ス
さ^{シテ}う^{シテ}は^{シテ}い^{シテ}ま^{シテ}付^スシテ^{シテ}は^{シテ}豊^{シテ}の^{シテ}日^{アヒ}ある^{シテ}
彼^{シテ}を^{シテ}爾^{シテ}人^{アヒ}心^{シテ}を^{シテ}捨^スシテ^{シテ}一^{シテ}セ^{シテ}よ^{シテ}い^{シテ}れ^{シテ}物^ノ拘^スシテ^{シテ}
ハ七十^{シテ}志^ス一^{シテ}日^{アヒ}と^{シテ}朝^スシテ^{シテ}以^テま^{シテ}樂^シ地^ハ省^スべ^{シテ}
い^{シテ}よ^{シテ}の^{シテ}山^{アヒ}湯^{アヒ}ある^{シテ}と^{シテ}通^スシテ^{シテ}日^{アヒ}休^ス人^{アヒ}あれ^{シテ}川^{アヒ}湯^{アヒ}
み^{シテ}ハ急^{シテ}と^{シテ}急^{シテ}ひ鷗^ハ乃^{シテ}更^{シテ}と^{シテ}行^ス軍^{アヒ}車^{アヒ}の^{シテ}心^{シテ}と^{シテ}行^スし^{シテ}雪

じに負ある月と云ふが、御の枝と桜を挿のみか
ひそめし夜はちくまの風吹てその事はおうとお
りまくや、其界やは行びき御よ十万貫と佩飾よ
おて掲めへせんとは馬もゆる騎も歎やし天探
女う謂あらばし吉川惟良の歌よ世と云ふ人のよ
もかりてんよ仰うあらんたまうづきをしされぢ身
ハあくれあれよのまうさと御るをとく子とゆりよ
すとおとしゆとさく歎きよ妻ハされとくをとくしり
ひと人の情うなまくやはゆるをき歌のあとおりい
子のりまとかあらんあくびくよほざれせよつまく

れゆうひいとくあしとやうとまきとさくうよ生し武
藏と云放たまんハわゆるゆみまくどまと假ひ水
と飲命あぐくするとも残りと様て飲乃權とぞしあん
と孝の道ととを仰と金乃尼と衣綿の事と歸て後
よ訖る事あんとゆりよハ深よりうのをうとあく
んみハぬ乃のれハさうざくまばねりみあとけぬ
とあまととく人の事ととを過ふ一われバをよ阿あ
れゆる若ぞ我と我身又堪へせん時をかてあくろとそ
ぐくきやうむる會し朱熹自警詩よ十年浮海一身輕

帰對梨渴却有情世上無如人欲險幾人到此誤平生又寄
子陸興の安達のまうりあひりてぬよたとれのあうろ
トカ外○井田類說云三年耕則餘一年之蓄故三年有成
成此功也故王者三載考績九年耕餘三年之食進業曰登
故三考黜陟再登曰平餘六年食三登曰太平二十七歲餘
九年食然後至德流洽禮樂成焉禮王制曰國無九年之蓄
曰不足無六年之蓄曰急無三年之蓄曰國非其國也又曰
三年耕必有一年之食九年耕必有三年之食以三十年之
通制國用雖有凶旱水溢人無菜色然後天子食日舉以樂
といつと豈とすせきある事より歎もばれの爲ちま

と不思どうまとわくはぬうせきらめく御利口すゆ
ゆきくもゆくあくび夫湯武以諤々而昌桀紂以唯々而
亡とて湯武ハ正直^{ミスジ}ニ諫争者と養へて國^{カタ}の之桀紂ハ
何事も決^{スル}を左様とけりくらむと迫て御^{ミサ}養し
くらむとくに國^{ミテ}乱胡^{ハシ}ハ治言多く治^{スル}おハ亂言多しと
て亂^{スル}よハ吾人^{ハシ}治^{スル}を承^ムのい波^{ハシ}の嘴^{ハシ}へ治^{スル}おハ上
下相應^{スル}て敗^{スル}と防ぐの言多^シとくふほや天災地災^{ハシ}の流
ひきく^{ハシ}氣運うきよのあれハ深く薄く頼め備^{ハシ}くと
あよ^シてゆきゆきゆるよ享保ナ十七年之歲西海道ノ疫
瘡^{ハシ}ウシテ歎^{ハシ}シキ小倉ノ内男女才方人比瘦俄^{ハシ}アリ肥

前後賀の内男女十二万口の疫傷死あり又近畿四
凡二十九万七千八百餘口の中男女疫傷の死人六万六
千九百二十口と訖也亦々やも上より回十八年癸酉
の夏八月汝より我のまきひ日本國第一絃よ疫病流
行て大坂三江の市中よりて遂風と稱ふ者凡之十三
万七千四百十五人と點檢やうとやも付の米價一
俵百十四み乃縫涌チアカリありとどりつゝ是等降喪饑饉ヒツヅル之賊
あらざる者有乃大荒ヒシキよりてかかゞよ人皆らへ
疫勢アミワラよおきて疫憲エイケンよ過風青氣ヒイキのくづくひ來てハ東都
とおのづくら不熟ヒシテとぞれ前傳クニシニ草道僅相シニシニ宿主海壁ハリ

顛轉タツツクもアリキはく文よどづハ跡よムセ天波アマカニ
傷アマカニもアリキはくはくばりアヘ天子法度アマカニ
アマカニは備荒待アマカニの候時アマカニもアリと寔アマカニ古今不易の政アマカニ
てさて又第一ゆは軍實アマカニハキアテアセ緊要アマカニの事アマカニも
かひある神武紀アマカニは備舟檻蓄兵糧アマカニトドスシハ兵食セ
足し給ふあとの制アマカニムサシモアシテ宣化紀曰修造
官家那津アマカニ之口聚移散在之屯倉須要以備アマカニ非常永為民命
天智紀修高安城積穀鹽元正紀曰用兵之要衣食為本
鎮無儲粮何堪固守募民出穀運輸アマカニ鎮可程道遠近為差委
輸以遠二千斛次三千斛近四千斛授外役五位下其六位

以下至八位已上隨程遠近運穀多少亦各有差云々兵法
云興師十萬日費千金と平壤錄よ豊大間以朝鮮城征せ
られし時明軍救朝鮮之役四年間凡用餉銀八百餘萬兩
火藥器械馬足不與ともあやう四年の間みとて多くを
支用かくのあとし而天下の費と償ふよ是が軍、兵他
國へ出でむかくしてとづべしま事のむり、陸奥國司
源頭處の府兵十個まと率ひ遠く京まで攻占し給ひ
ばす所より數萬の兵糧輜重は西とれしあとのみ
ゆけく民部式曰凡太宰府蕃客儲米三千八百四十石若
經年致損便充公用廻舊改新且事其修理府中館舍料稻

四万束毎年出舉六國取其息利充用若利滿一万束者停
舉西藩のこととき諸藩邊要之地あれどは小供蓄とすら
れり孝謙紀よ日向大隅薩摩等檢定船一百二十一隻
兵士一萬二千五百人子弟六十二人水手四千九百二十
人皆免三年田租赴弓馬兼調習五行之陳其所遣兵士
者便造兵器是異賊防禦の爲みて三年の田租減免さ
れと爲み候へ兵は足らずの爲事とつゝ爲し或曰太平
みれば兵もとつゝハ軍陣の事、兵恒よ謀ともみのと
みわざりまことに事の少い出もと不測ノ災難とい
ふ哉ハ不測ノ災難ひ生ぬ先と爲るの通あと免んと

てのぐれざるハ犯の跡とて私とみしてするハ所謂武
運あらず神武權衡錄曰武運と云ふハ久しくいひ有し
あるの歟何つりか十二運より之に又醫書の五運六
氣とて五行配當の論みをあくが神道又運と云ふハ則
乃ニと申すに氣へ火の運あり血ハ水の運あり土の運
血よく循環して溌ざる時ハせう痛みにて健ちう健ハ直
血脈と申すて人の本脾あるゝ運ハめぐらと謂ひ日月の行度
の生主潔明として心中ニ物を棄し苦よし者と失
汚穢と無ゆて云ハるがれハ氣枯リて神氣の生生と失
ふと、つり此氣枯ニ漏ぬやうニ勇進ハ武勇あれバ武
運の名あり氣は勇氣元氣陽氣正氣也といつれども天
日の雲とて生出人間の本氣あればからちづれづき天
眼と懸す道行ふ事無く所と生づれば骨と筋張りは
人と敵し或ハ擲ちごとくと勇氣とくとくと勇氣とくとくと
もと運転にせられ深急し喧嘩と好む腰と好む腰

ハ馬奴船長贊と云ふて書の上あるとていろふべきよなれば男
の陰氣よちりと人あくとていふべきよなれば女
氣血之うあくと人あくとていふべきよなれば女
と大あく際てハ色變と外極ひあくと常のがと變あく
ぬあるハ運の弱きあはしを運ハ人の氣うち心持
み在侍うり氣血の運動あくと人と解とて壽ハ息力
の訓氣血乃體殼と運の謂ふと人と解とて壽ハ長壽と
大氣長とも大海原仁推いアリ事ノ如トあり夫鹽の八重路の倉庫
と推放ハ級推いアリ戸の風息の傳任神武の氣血やくみ
そ何の澤あくと人と解とて是と忘ざるやうと人との思念と船
を大海原ふねをとては船と走るより身持と云ふと人との思
おを海ヌ良將乃格言うりおひし事のとおれ
へ人ハヨリ河とハナヒヌ江とおれど後妻と嫁病と

云々歎あはれ天竺西土の医風ある事は纏繞て社會の陽
氣と稱し考事のがて等向上の道河をやうと空氣と熱
氣と俗習とのて是河をすり嘗て百年前の國後
ノアヌクの如く人多入る某との或ハ四花患内事
の如あぐとつゝしてのハモカシカキハモカシカキ
とのすも長崎對馬口源と雖鮮人冬の侵一あ組
ニヌクのあくソアリ是日今の火と人多と臘葉毛
ろくさきゆゑもく況や五六百本以まの古書の中
ハ風氣傷寒の病患あぐの症とくふらとやもとあ
清感の火乃病といふと身中より火燒のゆゑるよハ
かくハ名あくめむハ允恭帝の御宇始て異邦の藥
法なり志ク聖國陰性の病ヒ治る方剤找俗乃陽分の
質ヒ合ざりゆゑ當時ニ漢土の薬ヒ用ひ人多し遠渡
セモ附剤加減ヒ考出しへ日本ハ陽氣裕也さおの
門ウセ着身災ふにて天年ヒ保て終りゆゑいふ
也。加く萬機塙曰吾邦ハ武國あり修羅モ比されハ哉
邦ハ陽も陽ハ形あるとすぶゆゑ事の甚之哉

木乃實ヒ活よかくめし學論曰原夫三皇之世有育人之
術而治人之道未詳焉農也醫也君臣自任之當時以為大
道也蓋上世民心敦龐風氣簡朴智巧未開嗜好隨而寡也
僅防饑寒僅救病患以為足焉當是之時君復有他慮乎
哉唯以給民之需為政務之急是以其所勞心思獨止於利
用厚生而己矣要之上世民情猶未病故教道亦唯在養
焉耳後世則不然興教邪說入其肺腑猶病危急者治之
病之藥石且對其症而處方豈有一定之目乎哉夫我陽國
方亦恐除病之不速矣暇調養ヒ加故後儒所主張大抵攻
病之俗漢蕃人の如く膏膾の醬牛馬の肉等を食へハ必
健あるうやうあり之て却て脾胃ヒ傷ヒハ元來性質の社
會の藥剤ハウモウれませぬかんじいと早や出ち氣
胃獨りく学の陽氣ヒ壞し自己乳汁もあり向かハ全體脾胃
者よがつくるに至り是過子う書出ゆる地獄絵ハ安らかと合
士ヌ通禽接五鼎景國うを拂ひ立即み眼ヒ附されま

と抜びて扇の主と附つけとさせれハいくらと
満ちハ六七十の創滅ありちどりて十の二員
とある所の筋にわくもととのきもし何れの陰陽
とあある切ふとてハ西臍ともし又物湯ハ物湯
とありとつゆとあるは渡めく氣おろへあはぬ
の東すもととてしてと向進て氣とあふあるづして志
がれハ後の息災ありと人は兩年前の病者ニ津に
づしてといつて此ハ氣の覆の疊と繩とてられ著
は氣漫とつと自効済と云ふは幽都みハ薑葉
食城を一生もめ者もしだやの者ハ薑も換がふ効
能の有時葉と減してくるかアマリ市糸のハ健葉
参湯参附湯トシテと醫の事とてと海よす水とて
人すまた茱萸の陰と中、(後)ハ早暮湯と飲むくし
バは病ハ行まひあざと同腹め前より廢るは病
あきまくさあくさや夫四花患門掌の兼穴ハ苦療
門はあて家ふとても氣血久大は虚の者ニ用の兼あ
里々ハ氣足あると弟貴生もえて相無ひといふハ早
急の氣末弱におとくすや凡事の理と通じて四十間

を十五呂をあず全本と平地と樓つてそつと歩
てとかまぬ氣前あれハ併ともあくまくと踰通の
よ千尋の巖へ登る獨り集と向て添らくとよせん
どうきハ忽々足双足是猿狽い毫上て狂病すあるハ氣血の津る津
猿狽あり又双足是猿狽い毫上て狂病すあるハ氣血の津る津
里又馬牛狗鹿の属と云ふ入るれハホ游ゆるも之を毛モウと
多くおうげり是の毛とまくあめくがぬるをかし今海川ニ游てハ二三呂と身を輕
るに浮く涼しみは石佛のあとをまくあめくがぬるをかし今海川ニ游てハ二三呂と身を輕
くさん。又男女ともよううきて流すはあしゆを腰内一卷
て善惡賢愚の場とあくまく是の心氣の妙やうをかり
き神也とらつて極々人には心氣の妙やうと我義もハ太
直日神直日平セ合ともつて佛佛より人之生也直とも
おり。又場界心地もとつて佛佛より人之生也直とも
まぬやうすが持主して承すおいて直やうある氣と柱
ぬめざハ神武のあとあれハ武運とて直やうある氣と柱

に原まで微塵を認シテまきる事無く卒フニ戰犯マスニ譲シら
れタゞは臣子シムシの身ヒトにて是ハシカシカニ有ハベキ事ハ
也ハセシムハ此ハ生リと爲スまで終ス敵マサニトシムシムト之ハ爲スひつ
ウルトハ郎君ロウジンの戦フ妻任シメシムトシムシムト候マサニ命マサニ付ス
行ハシメテこれハナシ日本史シムシの事ハトモトモ而ハシメテ唐カタニの後ハシメテ
巡ツラシ城シテ第ツヅクトハシメテ、即ハシメテ之ハシメテもシテ是ハシメテ佛ボダをハシメテ
ノハシメテ河カワをハシメテ淺シまシ罪ミサシ深シき妄念マタニシとハシメテ爲ス士シテ
生シテんシテのシテ志シテのシテたシテのシテ志シテのシテ主シテ義シテ勇シテ烈シテ大シテ將シテのシテ志シテ
よりかシテやはシテ何シテとシテ或シテ況シテよ蜀シテ乃シテ明シテ三シテ顧シテにシテうシテて
劉備シテはシテ一シテとシテ云シテ成シテとシテ初シテ微シテ一シテ時シテ大シテ將シテのシテ志シテ

ばし弱シテいはシテソドモうりのシテ人シテとシテ元帥シテのシテ位シテ居シテ兵シテ
將シテをシテおシテまシテうシテ、四シテ軍シテよ軍シテをシテやシテは軍シテにシテすシテかシテう
かシテ一シテ々シテ微シテ就シカれシカ、もシテどシテ法軍シテとシテ統シテてシテ下シテすシテるシテと
閨シテ外シテのシテ制シテとシテ仰シテふシテあシテとシテおシテすシテまシテ叶シテざシテアシテのシテ強シテ富シテきシテぎシテ也シテとシテおシテきシテハシテ各シテ分シテよシテづきシテのシテもシテあシテびシテあシテもシテか
しシテ且シテ劉備シテハシテ始シカ爵シテとシテ仰シテりシテしシテ人シテあれシテばシテ明シテにシテかシテてシテ本シテ男シテ臣シテのシテ恩シテ義シテをシテ三シテ級シテとシテ仰シテしシテ人シテあれシテばシテ明シテにシテかシテてシテ今シテ人シテたシテもシテあシテ君シテのシテ恩シテ義シテをシテ國シテ乃シテ大事シテにシテ際シテてシテあシテハシテ大シテ將シテよシテそシテしシテなシテふシテいシテあシテはシテ命シテはシテ従シテひシテやシテアシテたシテもシテハシテつシテもシテ

まうあく、己と挙まさんハももあきと國賊の徒あ
る。近の楠石論あくしてふ成劫に大石良雄の事
詔といひのりもよせは出へ、や凡治朝みそ
乱を乃事と諱漏せんす。何ぞもつてはざむしもく
して手切へ居つて生すとねある付の一日と孤塲^{スエ}に嬰
て日を廻すと川をての軍のほとが生まつま。夫お今
か義乃士^{キヨシキ}をうりびとめどと危難^{アラ}よ遭て身崩
と被ぞ戰^{キテ}一時て潔く討死^{シム}せん。ひと後^{タメ}世子^{マサキ}を感孚せ
るハ行^{ハシ}を西上みても閑母の相扁^{ハシト}はてては編くれ明
いきもあまほんよ財犯^{マサニ}を容易^{マサニ}かまうゆまて名

義節操曰月と並^{ヒテ}の多^{タチ}テ載の下^{イタ}さ^ガご^トくと仰
慕^{モウ}するハ何^ハ也^シ淺見氏遺言^{ミツミ}言^{ハシマ}シテ後醍醐帝既^シ隱
岐^キ國^ノへ北狩^{シテ}もひしげば官軍^{カミジン}惠^シく逃亡^{スル}て海^シと情^シ
う^シと期^{ハシマ}つき^シもあまに^シ戦^{ハシマ}いり抱^{ハシマ}くや^シ也^シ逃^{ハシマ}せし
て利害の多^{タチ}と處^{ハシマ}せざる^シ、之を避^{ハシマ}くすみ中
まれ^シの周武率^{シテ}列^シの對天^{シテ}一統用^{ハシマ}へ返^{ハシマ}せん^シと仰
夷叔^{イシヅ}の^シ首陽^{シテ}山^{シテ}係^{ハシマ}るや^シあ正夫^{マサヲ}あれども百^{ハシマ}世の
人^{ハシマ}とおり^シ見^{ハシマ}ふ^シ凜^{ハシマ}字^{ハシマ}て身^{ハシマ}のもよ^{ハシマ}うて蒙^{ハシマ}
う詩^{ハシマ}黄^{ハシマ}鉞^{ハシマ}風^{ハシマ}生^{ハシマ}鍔^{ハシマ}馬^{ハシマ}飛^{ハシマ}獨^{ハシマ}博^{ハシマ}義^{ハシマ}士^{ハシマ}魂^{ハシマ}戎^{ハシマ}衣^{ハシマ}華^{ハシマ}山^{ハシマ}佗^{ハシマ}日^{ハシマ}春^{ハシマ}烟^{ハシマ}

綠不及首陽嵒畔、微況や楠^シが父子兄弟相繼て三代忠貞
と寫く節孝一門^{アコ}子萃^{アコ}る所謂戰場よりて忘三^{アコ}の比
ト何^{アコ}を辛せすまるより其孫^{アコ}は文^{アコ}書^{アコ}子経^{アコ}もい
うち^{アコ}の資^{アコ}産^{アコ}と積^{アコ}貯^{アコ}すと學^{アコ}同武藝^{アコ}の職業^{アコ}と勤^{アコ}て
生^{アコ}理^{アコ}よ明^{アコ}よ及^{アコ}道^{アコ}より其^{アコ}ぞれ^{アコ}バ^{アコ}也^{アコ}の妻^{アコ}墨^{アコ}子^{アコ}被^{アコ}ひふる
し^{アコ}事^{アコ}あるの時^{アコ}子^{アコ}隙^{アコ}みは^{アコ}く^{アコ}小^{アコ}何^{アコ}と^{アコ}國^{アコ}君^{アコ}ノ國^{アコ}法^{アコ}
ト^{アコ}被^{アコ}ひむる^{アコ}便^{アコ}き^{アコ}ぞ^{アコ}と^{アコ}あ^{アコ}く^{アコ}人^{アコ}者^{アコ}ハ^{アコ}財^{アコ}力^{アコ}な^{アコ}もじ
より大^{アコ}ある^{アコ}と^{アコ}ハ^{アコ}あ^{アコ}く^{アコ}あ^{アコ}く^{アコ}凡^{アコ}サ^{アコ}事^{アコ}の時^{アコ}子^{アコ}ハ^{アコ}猪^{アコ}
多用金^{アコ}の係^{アコ}役^{アコ}と^{アコ}サ^{アコ}上^{アコ}つ^{アコ}経^{アコ}すと^{アコ}其^{アコ}役^{アコ}は^{アコ}か^{アコ}れ^{アコ}る^{アコ}審^{アコ}政^{アコ}
物^{アコ}頭^{アコ}ハ^{アコ}お^{アコ}て^{アコ}劣^{アコ}者^{アコ}と^{アコ}心^{アコ}地^{アコ}を^{アコ}め^{アコ}き^{アコ}散^{アコ}官^{アコ}閑^{アコ}職^{アコ}と^{アコ}有^{アコ}ら^{アコ}う^{アコ}が

ト^{アコ}ち^{アコ}と^{アコ}わ^{アコ}も伊^{アコ}勃^{アコ}氏^{アコ}曰^{アコ}主^{アコ}將^{アコ}金^{アコ}浪^{アコ}と^{アコ}吝^{アコ}嗇^{アコ}と^{アコ}ハ^{アコ}法^{アコ}士^{アコ}貧^{アコ}
窮^{アコ}と^{アコ}利^{アコ}欲^{アコ}の情^{アコ}競^{アコ}と^{アコ}済^{アコ}波^{アコ}の志^{アコ}や^{アコ}よ^{アコ}う^{アコ}も^{アコ}よ^{アコ}武^{アコ}具^{アコ}の修^{アコ}
復^{アコ}ハ^{アコ}少^{アコ}お^{アコ}う^{アコ}う^{アコ}も^{アコ}り^{アコ}儉^{アコ}約^{アコ}ハ^{アコ}武^{アコ}備^{アコ}の基^{アコ}より^{アコ}各^{アコ}薦^{アコ}ハ^{アコ}武^{アコ}備^{アコ}
の^{アコ}事^{アコ}あり^{アコ}修^{アコ}復^{アコ}と^{アコ}各^{アコ}薦^{アコ}と^{アコ}の^{アコ}事^{アコ}あ^{アコ}ゆ^{アコ}濟^{アコ}ば^{アコ}り^{アコ}と^{アコ}ア^{アコ}リ
凡^{アコ}士^{アコ}者^{アコ}武^{アコ}具^{アコ}の^{アコ}ハ^{アコ}軍^{アコ}財^{アコ}軍^{アコ}と^{アコ}御^{アコ}も^{アコ}う^{アコ}と^{アコ}財^{アコ}の^{アコ}候^{アコ}
カ^{アコ}あ^{アコ}く^{アコ}は^{アコ}具^{アコ}と^{アコ}儲^{アコ}く^{アコ}べ^{アコ}し^{アコ}他^{アコ}日^{アコ}事^{アコ}ある^{アコ}と^{アコ}候^{アコ}よ^{アコ}武^{アコ}軍^{アコ}
と^{アコ}お^{アコ}ん^{アコ}う^{アコ}て^{アコ}ハ^{アコ}家^{アコ}世^{アコ}の^{アコ}や^{アコ}み^{アコ}景^{アコ}安^{アコ}か^{アコ}く^{アコ}ま^{アコ}し^{アコ}修^{アコ}蓄^{アコ}き^{アコ}寶^{アコ}
あ^{アコ}よ^{アコ}復^{アコ}も^{アコ}お^{アコ}は^{アコ}な^{アコ}り^{アコ}と^{アコ}時^{アコ}それ^{アコ}よ^{アコ}う^{アコ}い^{アコ}つ^{アコ}れ^{アコ}て^{アコ}お^{アコ}く^{アコ}れ^{アコ}と^{アコ}れ
ど^{アコ}の^{アコ}う^{アコ}り^{アコ}又^{アコ}馬^{アコ}の^{アコ}口^{アコ}取^{アコ}中^{アコ}間^{アコ}あ^{アコ}と^{アコ}ハ^{アコ}戰^{アコ}場^{アコ}と^{アコ}と^{アコ}車^{アコ}被^{アコ}着^{アコ}板^{アコ}
の^{アコ}う^{アコ}か^{アコ}て^{アコ}具^{アコ}と^{アコ}穿^{アコ}び^{アコ}よ^{アコ}傷^{アコ}と^{アコ}べき^{アコ}は^{アコ}具^{アコ}と^{アコ}臺^{アコ}具^{アコ}と^{アコ}は^{アコ}紙^{アコ}甲^{アコ}と^{アコ}も^{アコ}雨^{アコ}やは^{アコ}清^{アコ}れ^{アコ}と^{アコ}れ
防^{アコ}ぐ^{アコ}よ^{アコ}足^{アコ}き^{アコ}但^{アコ}邊^{アコ}世^{アコ}紙^{アコ}と^{アコ}は^{アコ}廢^{アコ}て^{アコ}澤^{アコ}と^{アコ}し^{アコ}人^{アコ}殘^{アコ}缺^{アコ}と^{アコ}れ
の^{アコ}何^{アコ}り^{アコ}よ^{アコ}く^{アコ}竟^{アコ}漫^{アコ}と^{アコ}あ^{アコ}は^{アコ}づ^{アコ}く^{アコ}まれ^{アコ}の^{アコ}壁^{アコ}剣^{アコ}と^{アコ}車^{アコ}
て^{アコ}矢^{アコ}石^{アコ}と^{アコ}透^{アコ}う^{アコ}れ^{アコ}澤^{アコ}と^{アコ}ハ^{アコ}つ^{アコ}ま^{アコ}き^{アコ}も^{アコ}う^{アコ}封^{アコ}安^{アコ}井^{アコ}
手^{アコ}筒^{アコ}と^{アコ}和^{アコ}蘭^{アコ}人^{アコ}ハ^{アコ}小^{アコ}勢^{アコ}と^{アコ}あ^{アコ}ふ^{アコ}と^{アコ}挂^{アコ}け^{アコ}る^{アコ}よ^{アコ}甲^{アコ}胄^{アコ}の^{アコ}用^{アコ}

意あきハ如何ニシテ同シテ和葉人の言ハ七十一年
までハ用リハ一ノ砲既出てよりまことに者ソハ傷
不引由スリハ用ヤジトアリトクシテ也。又按子東鑑佐
佐木高綱入道曰勇士之赴戰場以兵具為先甲胄者輕薄
弓箭者短小也。是為故實トコリ侍本高綱ハ鳥銃の名
トシヘキ。さア付ミテ斯言何リ。お勤マ義掌の節ま
テハ士氣の勇猛とおのづくらめ。豈もうし時ニ紅毛人
乃言ふ今つるトス。あぐト達モ試ム。ハむさくつも
ましく
ける

正倉書紀○御宅毛の義即御廩地今姓ニ三宅あと書有り
貞觀儀式ニ五月旦日奏御宅田稻麿ノはモ倉の正税
員數トシテ上也職原鈔大炊寮掌諸國
御稻田等東鑑ニ御倉檢納等の事
稅倉官倉放の名應神紀ニナリ又倉役の官
記ニ下代トツフ周禮の倉人トツフ
大藏古語拾遺諸國貢調年々盈溢
雄畧朝更立大藏此ナリ前神

正倉出土記

校

武御宇宮内建齋藏履中朝復造内
藏大藏之併て之ト三藏之称ト也北山鈔
倉校屋あり神代紀ニ貯ヒトガ色と訓ウリ
御廩公羊太倉史晋倉廩禮記疏穀藏曰倉米倉曰廩說
氏之庠也いみトハ穀萬億及种
倉米倉之名と竟モセリ

番名

垂仁紀廿七年興屯倉于來目邑其後景行紀五十七年令
諸國興田部屯倉也倉の公諸生名ナムナムアリテ後
安閑の御宇ニ迨て制て屯倉ヒ西南諸國ニ在ムアリテ
ヒ凡廿六所中五所ハ東國ニ在リ櫻井田部連等ニ詔
して屯倉の稅主掌也ムモ屯倉ハ屯田の稻ヒ上入



もとよりて名とれ故に釋より屯倉者天子之米廩也と
云ひり 安閑 宣化の時より徳蓄人より傳ひり 孝德
の朝より到て一百八十一所の屯倉を停うる 文武慶雲
三年より始て義倉と號すも本紀曰准令一位以下及
百姓雜色人等皆取戸粟以爲義倉義倉之物給養窮民頼
為儲備其情合義故曰義倉富賑貧養老三年九月六道遭旱開
義倉賑恤之延喜式凡京職正稅義倉穀者省興主計主稅
典知出納正稅主計主度 淡祐帝常平倉を設立めり
あり 荒蕪重祚穢濱を嫡もび於是 光仁帝の寶
龜十一年より官員と分省て國用と賑足の政を復興

セシムニシ畧曰古者人稠田少而有儲蓄由於節用也
今者地闢戶減而患不足由糜費也當今之時省官息役上
下同心唯農是務ホリ是勞役の仕官よりハ俸禄と弱
い富咸と鮮免されハ皆田役とあやへゲウキ官員増
ハ世人少く田園荒れどとて官と省き農の生産と勞
作と實同やとありあふれどと後安よりてハ耕而
もべつ又財用と勞る者のと國家の利益よりて公儲
其他の冗官閑職ハ徒より上の稟俸を食いつぶして公儲
乃た吾あわざして汝不自負と弟勝アツルつりよまくも
詔書の人の扶助とおづかげ武家の類をつくるよ

うたすまを魏書より祿賜穀帛。人主之所以惠養吏民而
为之司命。若令有廢是奪其命也。アリ中葉亂國とあり
且凶荒あまり川々上よ入る。重き移徙し多くもびたらむ
ざふちとよすもあ用ひらざりて三年の蓄はひそむく
さくも年分の食さへ欠ちる。何ぞれは政のよしや
候ハか否もまづよし年をえてものとくは政のよしや
うそてゆの法も波立て秋浦川も穀倉もまづ理あれ
ハ哉。邦金銀私食の者少く給えおとは准を
キ哉。湯ぬ金し荀王制より王者富民霸者富士僅存之國富
大夫。トシテ又多く是或三條ノある。ばに乃津みうけよ

ト間のよどハ同じつとのあり凡和とづくハ雅樂
の曲子あり同ハいともさの巧ふく覇者の持道あり和
とは清化乃ちとすて自然ありとつまざ自然のあらう
でハ清化トハヤマムサセ山凌華加曰。文武帝之置義
倉也。淡路帝之敷常平也。當時得入焉爾乎蓋蔑聞於後
世々按ニ隋書ニ長孫平義倉法ハ令民間毎秋皆出粟麥
一石以下貧富為差等儲之閭里以備凶年。又前漢書ニ常
平倉ハ宣帝時年豐人利少大司農中丞耿壽昌上計令郡
國皆築倉以穀賤時增其價而糴以利農穀貴時減其價而
糴以利民。トあり是漢の时ハ租税甚軽く米粒常ニ常

わづもとにおのづく常の儲蓄を以て是等禮
月令の神倉漢籍田倉の善政からて三代聖人の遺法尔
と司馬溫公もつたり又社倉ハ唐代より冊府元
龜云唐高祖武德元年令州縣始置社倉按細鑑易知錄
道四年民艱食朱熹請於府得常平倉米六百石賑貸云乾
道の内十石計あり夏受栗於倉冬則加息計米以償前
後隨年斂散歟蠲其息之半大饑則盡蠲之凡十有四年以
元數六百石還府見儲米三千一百石以為社倉不復收息
毎石止收耗米三升其法以十家為甲甲推一人為首五十
家則推一人通曉者為社首其逃軍及無行之士與有稅糧
衣食不缺者並不得入甲其應入甲者又問其願與不願願
者開具一家大小口若干大口一石小口五斗五歲以下者
不預置籍以貸之其以又宋范希文義田の法ハ以常稔之
溼惡不實還者有罰田千畝養濟羣族之人按又宋の百畝より米百五十石を
不預置籍以貸之其以又宋范希文義田の法ハ以常稔之
溼惡不實還者有罰田千畝養濟羣族之人按又宋の百畝より米百五十石を

千五百石擇族之長而賢者主其計而時其出納焉日食人一
升此方の三合升二勺又當一歲衣人一縑嫁女者五十千再嫁者三十千
娶婦者三十千再娶者十五千葬者如再嫁之數葬幼者十
千族之娶者九十口歲入給稻八百斛以其所入給其所聚
仕而家居俟代者與焉仕而居官者罷其給云く凡希文の
義田と陳高德の義莊の如き士通の高義からて仁愛
の美事あり嘗寛文中會津侯土津靈社社倉法を行ひ
るその特の家訓より社倉為民置之為永利者也歲饑則可
發出濟之不可他用之とほんとや按又梁川氏曰常平
社倉ハ民飢セ賑給するの体モ事最善といつとも舊是

西地の遺風史家も人よりうづれハ或ハ依怙偏執の如
出來て久しく行かずつゝを但屯倉法のぢとすも設若
漏み仰ひとて却て弊難の弊なしを知汝國此
候ヨイシキものわり凡ハふくの蓄積ハ福被とも
云總實ありハ故もて概未セテ若然承までハ少年
より二斗の米ヒ蓄へて毎年ハ既ニ升レド減少す
きのうは一年の中ヨリてきヘ一石ナハ既小一斗
の損耗ナリ況や粒斛のまされハ粒斛乃費計而至
ばかニ植莖ナシ蓄おけハ何年既經くと輕はずと餘時
云廢アシ未小做ハ新穀小束アシビ俗是ヒ今廢ノモ即
前束とも喫するハ

収穫蓄
○或曰米廩ハ澇地よりし乾地ハ米穀更
墨土を穿て澷水を折根タケルにて積室ト俵の腐カバヒと
の潤スルナシ米よく保キル又曰既ミテ米の更ハ故米と
新米と諸込タマクナムナモア故米更ハ氣残クルテ新米と傳
め更ニあれハ故米と拂出ハサフし跡と掃除して風と入火と
焚スルて温ムシれともい然新米と諸物サテ風の吹スルなくよしと
トナリハ温ムシくふもア唐書云常平倉栗藏セイヒ九年米藏五年
下濕之地栗藏五年米藏三年と々云ひれて栗藏五年
の地ナ貯スルナシハ風土によろづ接古事記速總
別王のみに梯タシに梯タシ乃倉榜山カヤマ書紀カシキ神庫カミガラ

雖高也我能造梯豈煩登乎と云え今熱田神祠ハいあし
一の御倉作と云ふと神庫乃事よりの倉廩を柱
として高くする下學集等又庫と云ひハ其圍の
木を五年で伐りよしと併べし今吾南島乃倉製
皆さるまで方言よ高倉と呼づサヘの脚極て高く
一底浦と廣くあかし風とほし且水難多鼠の患と防
ぐみうろし今鼠倉と云ふと神武紀よ高倉下とあると
是よりねどい令とべし主税式よハ穀倉糲倉粟倉穎倉
等の名あり窯ハ即穴藏までを址淺くまよひとの土藏
ハ土屋とも土屋藏とも呼ひてあり 大和物語よ良
肇宗の御持

乃ちとく行路よ五条起きて雨ひまう寝あれハ荒する
門よかくれて元いよれハふ皆ぞうりふる檜は屋の志
とよお屋くらうあぐあもととくあと尼く次建武式日
ニ無盡錢の土倉と同追加ニ應永卅二年洛中洛外酒
屋土倉員物之事又親元日記文明中三條室町東北頬在
所事就一亂捨置之處今度燒失畢雖然土倉相残云々
西土收穀のあとハ毒いみへとおれし乾隆六年條制
ニ查京道各倉收貯米石毎廩各置氣筒伍個洩米氣甚爲
有益其氣筒の竹ハ毛竹或用うと見え音うちれヒ沖縄
人ニ向ニ唐ハ官廩ニ納ムヒ穀みづ木秤とく量取
里廩ふハそまくおせ番より度もやうふおし入るもう
度出入りハ藏監之せ檢察て秤子斜子おのく最重小量
目成字よすうといつり又私小穀ヒ蔵あらむハ也一間

寫八寸許ノ紙袋有内小穀袋納宣より但米客ぢ
至處是代候ムホトク 云々 挑果穀と箱付納ムホト
あり詩乃求半斯倉乃求萬斯箱格物論ノ 手方付テハ
昔春而入土者升斗耳秋而登場者倉箱也
穀袋亦里苞付て委積事トメは並つくぞりヨリ
運動付湯彌雨あふ事トメは沾腐又無賴役ニ探司付
傳ニ窮れ候ムドの患多シテルモウムの如くニ達哉
百里か一肩の端ノハニモウキ苞あくどハ幸く被し
かくらゆ

貸稻書紀○伊良志トハ小もビ大ニテアリ理報靈
貸稻異記ニ息利ヒリシシマ鑿劔ト御里俗ニモ

人よソクセイウツテ夏ニテ多用田ヒテ得ヒリト田
くとく俗ニ少減ヒテ余合て後ニ多減ヒ得ヒリト田
亦ヒリヒリヒリヒリヒリヒリヒリヒリヒリヒリヒ
美ヒリヒリヒリヒリヒリヒリヒリヒリヒリヒリヒ
詣あるあくすり年ニテ五月ニ行ニ政ニテ米場アリヒ
酌ムウ貧者ト召モシテ主モウロの事語テヨリ民モ事
ム做テおのくや否合て賤ヒシカレヒヤトヒアリ
貸税天武紀詔諸國貸税自後明察百姓先知富貧簡定三
之而貸稻及貨財者乙酉年十二月三十日以前不
問公私皆免原是太平記時代の法收ヒリヒリヒリ
持統紀元年詔曰凡員債者自己酉年以前物莫取利也若
既役身者不得役利子ハ子實トツツトムシヒリヒリヒリ
浮字ニ利子ハ子實トツツトムシヒリヒリヒリヒリヒリ
類可為五文字米穀類可為六文字今幾分幾割ヒリヒリ
無盡錢建武 田乃毛志 田物代にて田矣あ
假貸漢書倪寬傳為左内史收租稅時與民相假貸以故租
不入又孝宣三年詔云流民還歸者假公田貸種食

稱責周禮　稱貸孟子　減米羣芳譜梅堯臣う貸米　貫貸史寧
成傳貴貸買陂田千餘頃假貧民役使數千家致產數千金不盡子利息母本稻也搖會顧體集搖會一事雖通財之道原為親期一到點金無術雖重利而不顧惟求先應於會豈非刻肉醫瘡とみつゝ點金無術とひきのとしの日限みるも雖亦あく金あきゆゑる的の金を借て手脅よなわよりかどよ肉にくとせりて瘡きずと療治りようじらるべめしと云

番名

是ハ國制ニ貧弱海弱ト平守ニ解り古百姓工ニ伍人組
ヒ立田物志タノモレニ付シ出令淺タマツカト村役所むら役所ニ經きキ食民くわんみんの者租
ふく食ヒキ前後フサキよ過了スル時ハま渉ハシヒ役所より出ハシム一
つ一村中ヒ結合立行ハシメテ急産業ゆきさんぎょうト生産せいさんハ一生涯ハシメテ云

田の主シナシと取ハシメテ年ハシメテ賃入ハシメテあやり是貸
税ハシメテ古法遺ハシメテ大野ハシメテ士以上ハシメテかやくに伍人組ハシメテ
約束ハシメテ及ハシメテ困窮ハシメテの朋ハシメテ年ハシメテ有ハシメテ人ハシメテ之ハシメテ有ハシメテ之ハシメテい
い公助ハシメテ助ハシメテ事ハシメテれありハシメテ義理ハシメテ大ハシメテ上ハシメテを
うりもの過ハシメテ事ハシメテある者ハシメテハ壁ハシメテもハシメテかもハシメテと
よハシメテあさよハシメテきわざハシメテあめりハシメテしハシメテ祭ハシメテの差ハシメテとて
天下ハシメテの耆老ハシメテヒ始ハシメテてつよ窮民ハシメテあまやうハシメテ養育ハシメテの支
配ハシメテとよハシメテゆハシメテ、漁溝ハシメテのハシメテ日本後紀ハシメテ桓武帝ハシメテ
勅ハシメテ曰ハシメテ貧民彌貧富家愈富ハシメテ拘濟之道不顯ハシメテ然割折ハシメテ有餘之貯ハシメテ
假貸ハシメテ不足之徒收納ハシメテ之時先得報ハシメテ之若遭凶年ハシメテ有未納者ハシメテ賜ハシメテ

以正稅後徵負人又是より前養老四年太政官奏望請比
年之間令諸國毎年春初出稅貸與百姓繼其產業至秋熟
後依數徵納其稻既不息利令當年納足不得延引穀有逋
懸又曰百姓之間負稻者多緣無可還頻經歲月若致切徵
因即逐散望請限養老二年以前無論公私皆從放免庶使
貧乏百姓各存家業是甲子年歲凶ハ富曇候候行之
之の朱穀と常價城より難み出さしめホハ春ハ正稅
の捐と百姓ふ徴あへ秋もみて返納やめてもの恩
とは收あらむく時の急難を賑ひ民の煩勞減免りましま
しるの善政ふもてその義倉の能とのもし唐柳仲郢凡

理藩府急於濟貧卽孤有水旱必先期假貸廩軍食必精豐
逋租必貫免館傳必增飾宴賓犒軍必華盛凡向蒙之るハ
信約ふして人を待たる者は華盛ち。小事とくべどと
齋夫の能ぐる所よひもされハ凡先上トヨ限づべ人
ニ借用せざるふとすよひ無くし尚僕撮要曰社と借
里用の時ハ產と破るの事もう淺べきしげハ銀瓶章若
して忠良無不知と能かし他は立づくべあ焉おあくし
て財と借用ときは款々かかれて立く返ひび始借り
一時の困とおもひ承もろにそし借すがしかばんと
あ若か幸の中より出し候まこと亦ハかり用てびへ是

うざあみておし怒ノぐハ人の辛苦ハシマツ一ハシマツ一ハシマツ人ハシマツとか
主用ハシマツて五ハシマツ六ハシマツ一旦ハシマツ貧愁ハシマツ不義の利害ハシマツとひとも是盜賊の
けと免ハシマツられハシマツ也後ハシマツまのは失ハシマツ亦ハシマツのが。金ハシマツくハシマツい。○一村乃
中ハシマツ高賞ハシマツの士物力の百姓ハシマツあきそとの焉那ハシマツたちの農圃
常ハシマツ貧ハシマツすやうどハシマツつよことひも是ら農圃ハシマツうしてハシマツ
ゆく災ハシマツよ傷ハシマツすの畜ハシマツすどとがまよのれ一昔ハシマツべ僕歲ハシマツより
いぬハシマツつるの畜ハシマツまでとまく戸ハシマツ一戸ハシマツねへ未ハシマツ浅ハシマツと傳ハシマツりよま
牛淺ハシマツととくにあひの租ハシマツと傳ハシマツる四年ハシマツよりも僕ハシマツもよま
りよの約ハシマツ息ハシマツとうきてれまハシマツみきハ其嘗ハシマツうて渡ハシマツヤハシマツと
のを経ハシマツかうからハシマツ一村の窮民ハシマツを渡ハシマツす戸の者

乃奴隸のやうよなまづりさればむハシマツ一延喜二年停止ハシマツ買
取百姓田地舍宅ハシマツ占請ハシマツ開地荒田格ハシマツ曰賂遺之所費田地遂
為豪家之莊耕構之所損民烟長失農業之地畧八挺之地
有限百王之運無窮若削ハシマツ有限之壤常奉無窮之運則後代
百姓可得而耕乎ハシマツと云々或曰萬々民田號ハシマツ典貧民ハシマツ金
とかしうけあひと歎て泣ハシマツよハかまざハシマツ田地ハシマツとひもはあ
よ通ハシマツるハ深ハシマツアキテ貧ハシマツハ深ハシマツアキテ貧ハシマツハ
村高一町ハシマツよ不昌民ハシマツへハ寃流ハシマツあと伐ハシマツやして賣ハシマツ渡ハシマツ
あとば禁ハシマツしき申内ハシマツハ賣ハシマツ賣ハシマツりよ任ハシマツやもバハシマツの生ハシマツ三十
あと經ハシマツハ十ハシマツよ七ハシマツ貧富地ハシマツ代ハシマツ易ハシマツるとのあまハシマツよ経ハシマツよ

權の大富とあく難^ハ存の極^カあく平^タて狀^ハと
す^ムあく^ルん^シと^ク百^姓と^クて^レと賣^スと^ク積^ムと^ク時^ハ
ハ不^賣して^ク小^保の^シ賣^シ源^シか^ムも^シど^ムあ
うと相^続あ^クば^クと^ク百^姓ハ賣^シ中^シの^シ済^シよ^ムあ
ゆゑあ^クへ^レて賣^シ中^シの^シ済^シよ^ムあ^リも^リあ^リ
ミ接^シよ^ム賣^シ田^地ハ書^入の年^{より}二十年^{より}十年^とき
ある^ムと式^用よ^ムえ有^合ハ書^入八^年より十九^年と^き
日^ハ之^ニ海^地と^クあ^リ也尤^シ代^ス賣^シ買^シあ^リいふ^シ
の禁^制あり元明紀曰賣^シ買^シ田^地以^テ錢^爲價^ト若以^テ他^物爲^シ價^ト
并^シ其^物共^ニ爲^シ役^官或^シ有^シ糺^レ告^レ者^{則^シ}給^シ告^レ人^{賣^シ及^シ買^シ人^{並^シ科^違}}

勅罪本政書云一夫占田五十畝其有羨田之家毋得市田而雜紐錢穀以什一之稅為或曰不^貸ハ化^キ一^ノ社^{テキ}生^シ也^モ不^貸ハ^シ力^{アマ}也^ハ不^貸ハ^シ生^シ也^モ又^シ無^シく^シ少^シも^シいたいふ^シ百^姓ハ地^ヲ墮^シて^シ五^ノ口^ヲ四^ノ口^ヲの高利^ヲ借^シて^シ是^シかく^シ二月ノ頃より助^シて^シ九月十月ノ頃ハ右^ノ化^キ小^利足^シ加^ヘ御^シか^シも^シ不^通少^シとい^テと^ク皆^シ借^金の利^ヲひいりて^シ常^シが^シ有^シて^シ此^ノの^シと^ク推^シて^シ堅^シと^ク封^シい村^シか^シ入^シし^シの助^シや^シく^シ二月^ハ一^シう^シは^シ乃^シ息^ハて^シ村^切小^利づ^ケく^シ貢

三回しく息ヒ地頭一職當しあうれハ農民もゝま
まして互ニナラシ候を宋王荊公^ウ青苗法の知行^ハ於一
邑則可^ヲ不知^ガ行^ハ於天下不可也^{ナリ}ごく^{アモ}ト^リるを
うべ令^{ハシメ}曰^ク凡^ウ外^レ任^ス官^人不得^{ハシメ}將^ス親^屬賓^客徃^ス任^所及^ス諸^カ占^ス田
宅^{タカシマ}與^ス百姓^{ヒヤシ}争^フ利^ヲ國語^云匹夫^{ノミハシメ}專^ス利^ヲ獨^ス謂^ス之盜^ヲ凡^ウ田畠宅地^{タカシマ}
古^{ムカシ}て百姓^{ヒヤシ}と^シ得^スとき^{カシマ}う^{カシマ}て本先王^{ノミハシメ}の令禁
ひ^{カシマ}後^{カシマ}及^{ハシメ}ては田畠の利^ヲ可^{ハシメ}う^{カシマ}り^{カシマ}士
類^{ヒヤシ}ふ^{カシマ}て商賈^ヲ利^ヲ當^ス乃^{カシマ}き^{カシマ}よ^{カシマ}と^シよ^{カシマ}
省^{カシマ}は私^{カシマ}か^{カシマ}あ^{カシマ}う^{カシマ}ど^{カシマ}や

成形圖說卷之十終

